

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271400404		
法人名	雲南福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホーム加茂の郷(ツツジュニット)		
所在地	島根県雲南市加茂町南加茂706-4		
自己評価作成日	令和2年9月13日	評価結果市町村受理日	令和2年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和2年10月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人のしたいことや思いをくみとり、『その人らしさ』を大切にしたプランの作成、実践に取り組んでいます。認知症の理解、その人らしさを大切にするためのケアについて会議で話し合いを行い、職員のスキルアップに努めています。

入居者の重度化により、職員の介護力も重要となっています。毎年職員が救急法の受講をしています。今年度は新型コロナウイルス感染症予防により救急法の講習自体が開催されず、合同会議にて緊急時のシミュレーションや酸素ボンベの使い方を復習するなどしています。

例年、季節の行事には地域の方や、保育園の園児たちに来ていただき交流を図っていましたが、今年度はコロナの影響にて交流は中止しています。しかし、季節を感じていただけるよう季節の行事は行い楽しんでいただいています。状況が落ち着けば、地域の方との交流を再開したいと思っています。

中庭が整備され、天気の良い日には、パラソルを出して外でお茶を飲んだり、日光浴、他のユニットの利用者様同士の交流を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者、管理者は職員が長く働き続けられるように職員一人ひとりの働く条件に対応している。今年度早々、コロナ感染予防で様々な活動が制限される中、中庭やウッドデッキで食事や茶会などを行き季節を感じられるように支援したり、内部研修で認知症の理解や言葉遣い、対応などケアを振り返り、2ユニットの職員が協力してチームとして取り組んでいる。利用者の生活歴や思いに寄り添い、夕方のシャワー浴の継続や歌が好きな人、散歩に行きたい人など、個別のケアプランに沿って「その人らしい暮らしを支援」している。利用者は毎日の体操や誕生会、デザート作りなど楽しんで生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、会議室の見える所に掲示されている。理念が実践に繋げられるよう話し合いをしている。	毎月の職場会議や日々の話し合いの中でケアをふりかえり、理念に沿った実践となるよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材は地域の商店から配達して頂いている。今年度はコロナ感染拡大予防の為、利用者の安全に配慮し、中止としている。毎年地域の方と行っている行事は園内で継続して行い、利用者の楽しみの暮らしに努めている。	現在、地域の行事参加やボランティアの来訪は中止しているが毎月の「かも郷・杜だより」を通して事業所の活動、利用者の状況を地域へ発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、活動状況、利用者の状態報告、認知症の対応等お話を頂き理解をして頂いている。今年度はコロナ感染症拡大防止の為、開催していない。今後状況を見ながら、開催を検討していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回行っている。日々の活動状況等報告し意見を頂き、サービスの向上に努めている。今年度はコロナ感染拡大防止の為、開催をしていない。今後状況を見ながら、開催を検討していきたい。	今年度は感染症予防対策で一時期できなかったが、開催方法を工夫し取り組むことを検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報交換を行い、協力関係が築けるよう努めている。	日頃から相談をしたり必要な情報提供を受け協力して取り組んでいる。たよりは総合センターや居宅介護支援事業所にも届けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回園内研修を実施。利用者の安全を図る為、やむを得ず拘束を行っている方はある。経過観察の記録をし、毎月の会議で話し合い、廃止にむけて検討し3ヶ月毎に身体拘束廃止委員会を開催している。	ユニット会議や勉強会で身体拘束の理解を深めケアをふりかえり取り組んでいる。センサーや柵の利用は家族に説明や了解を得て対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回園内研修を実施している。合同会議にて、言葉遣い、対応について話し合い、ケアの振り返りを行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修にて学ぶ機会を設けている。又年1回園内研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、主任で行っている。ご家族と十分な話し合いに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、苦情相談窓口を設置している。外部にも苦情相談窓口がある事を説明している。ご家族には、面会時に意見、要望を聞くようにしている。	面会時や電話、毎月のたよりで家族から意見、要望を聞き運営に反映させている。担当職員も利用者家族へ日頃の様子や写真を載せ個々にたよりを送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談で意見を聞き反映出来るよう努めている。	管理者は日頃から会議や現場で職員の意見を聞くように努めている。夜勤専従者も会議に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の働く条件に対応している。人事考課の取り入れ、表彰制度等、職員の意欲の向上、レベルアップ等向上心を持って働ける職場作り、産休、育児休業制度等環境の整備、福利厚生の実施に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルアップにつなげる為、外部研修を受ける機会を設けている。園内研修にて、研修報告、振り返りの場を設けている。園内研修は年6回実施し、全職員が参加の対象。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH、小規模多機能部会にて他施設実習、研修会、親睦会等交流の場がある。今年度はコロナ感染拡大防止の為、実施されていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族と面談の機会を設け情報収集を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面談の時間を設け、要望等に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で事前調査を行い、GHでの生活が適切か、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の出来る事の把握をし、一緒に行い暮らしの支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中、面会制限を行っており、ご本人の様子を電話や毎月のお便りに毎回写真を載せ、伝えている。ご家族と電話でお話出来るようにしている。又、リモートの利用も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中、面会制限を行っており、これまでと同じ支援は難しいが、話題の中に取り入れるようにしている。	面会制限時は関係が途切れないように手紙や電話、リモートでのやり取りを支援し、現在は窓越しでの面会も援助している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性の把握に努め、利用者同士、一緒に家事を行ったり、くつろげるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じ相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いに耳を傾け、その人らしい生活が送れる様努めている。困難な場合はこれまでの生活歴をご家族から聞き、支援に努めている。	帰宅願望のある利用者には寄り添って話を聞き思いを聞くように努めている。困難な場合は本人に合った対応方法をほかの職員から助言を受けたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネ、入居前の施設等より情報収集を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の観察をし、現状の把握をし、職員同士共有出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、本人の意向をききプランに反映させている。毎月の会議にて、カンファレンス、モニタリングを行い、話し合っている。	個人記録に分かりやすく短期目標を表示し、各勤務で評価している。利用者や家族の要望を確認し現状に即した支援となるよう介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践の結果を毎日個人記録に記入し職員同士で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。ケアプランは3ヶ月ごとに見直しを行っている。状態変化時は都度見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによる大正琴や保育園との交流をおこなっているが、今年度は、コロナ感染拡大予防の為、実施していない。利用者が楽しみのある暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続にて、受診、往診を行っている。主治医へ、状態報告、相談をし関係づくりに努めている。制度を利用する事で連携を図り適切な医療が受けられるよう支援に努めている。	利用者それぞれのかかりつけ医と連携を取り適切な受診や往診ができるよう支援している。受診の結果は家族に報告し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態を看護師へ報告、相談を常にし、看護師からの指示を仰ぎ早めの対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、出来るだけ面会に行き、状態の把握に努め、職員同士情報の共有に努めている。家族、病院(相談員)との連絡を密にし、カンファレンスの参加もしている。医療連携シートの作成をし病院への情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族に終末ケアの説明をし、ご家族の意向を聞くようにしている。状況に応じて都度ご家族と話し合いをするよう努めている。	重度化に合わせ家族や関係者と話し合いながら事業所ができることを伝え、家族の希望を尊重した支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度はコロナ拡大防止の為、救命救急講習を受けていないが、毎月の合同会議にて、急変時の対応のシュミレーションを行い、確認し合っている。看護師が酸素等の使い方の指導をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルは作成している。訓練については、今後、実施していく考えである。備蓄等の確保をしている。避難訓練は年2回避難経路の確認、利用者の安全な誘導方法の訓練を行っている。	災害発生時のマニュアルを整備し数日間の備蓄確保をしている。利用者が安全に避難できる場所が敷地内にあり訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳が守れるよう言葉遣い、声の大きさ等配慮している。言葉遣い等、職員ひとり一人が意識出来るよう、休憩室、ロッカーに言葉の言い換え表を掲示している。又会議で、話合っている。	日々のケアは職員間で確認し合った「言葉の言い換え表」を意識し対応している。トイレや入浴の援助時に声をかけ、まずはきちんとドアを閉めることを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で意思決定が出来るような声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペース、希望に添った生活支援に努めている。(食事の時間、場所等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面、整容等その方に合わせた支援を行っている。パーマや髪染めを希望される方もあり、ご本人の思いに添った支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや、片付け等一緒に行っている。職員は利用者と同じ食事を一緒に頂いている。希望献立の日を設け、一緒にメニューを決め、調理をしている。コロナ禍の中でもあり、買い物支援は中止にしている。	利用者のできることを活かしながら調理や片づけを職員と一緒にしている。希望献立でちらし寿司やフルーツポンチなどみんなで手分けして楽しく手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりに合わせた食事量、食事の形態を提供している。食事量の少ない方は、補食をしたり、水分量の少ない方には、好みの飲み物や、ゼリーや寒天等勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは必ず行い、その方に合わせた支援を行っている。歯ブラシ、スポンジブラシ、歯間ブラシ等の使用、夕食後にはポリドントでの消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し排泄パターンの把握し、ご本人の仕草にも注意をし声掛け、誘導を行い、トイレでの排泄に向けた支援に努めている。	排泄チェック表を参考に一人ひとりの力や排泄パターンに合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や、散歩への声掛け。乳製品等提供している。又必要に応じ下剤等でコントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の思いを大切にしながら、個々に添った支援をしている。	希望に応じた支援ができるように体調やタイミングに合わせた支援をしている。入居間もない利用者の習慣を尊重し夕方のシャワー浴を行った。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の習慣、思いを大事にし、体調等その時の状況に応じて休息して頂いている。夜間安心して休んで頂けるよう、寄り添い、お話を傾聴し時には、暖かい飲み物等勧め気持ち良く休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容が分かるよう、個人の医療カルテがある。皆が確認出来るようにしている。内服の変更時には、様子観察等に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの出来る事、得意な事を把握し個々に合わせた活動を支援している。家事等は日課になっている。中庭でお茶を飲みながら季節のお花を観賞したり、談笑出来る場を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	中庭への散歩や草取り等希望に添った支援を行っている。コロナ感染拡大予防の為、外出は中止しているが、ドライブにて気分転換を図り、楽しい時間になるよう努めている。	現在はコロナ感染防止の為以前のような外出はできないが工夫して支援している。車内から景色を眺めることが多いがドライブを楽しんだり、事業所周圍や中庭の散歩ができるように職員は利用者と一緒にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布をもっておられる方は、受診に出る時等、財布の中を確認される。もっておられない方が多く、事務所で預り必要な時に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望のある時は使えるようにしている。ご家族からの電話もありお話される。今年は、コロナ禍にてオンラインでの家族との交流をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調整、室内の明るさ等配慮し、過ごしやすい空間作りに努めている。又居室、ホール等換気にも十分注意をしている。季節を感じて頂けるよう壁面や、季節の花を飾っている。庭に咲いている、花や草花を利用者が摘んで来られることもある。	木材をふんだんに利用した共有空間は心地よい造りで所々にソファや椅子があり利用者は好みの場所で寛いでいる。新聞や本を読む習慣を継続したり壁絵や塗り絵を楽しめる心地よい空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールへ椅子、ソファを置き、好きな場所で過ごして頂けるよう配慮している。中庭へベンチを置き、過ごしやすい様パラソルを準備し利用者同士談笑されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット使用の方、畳使用の方がある。その方に合わせた対応をしている。家で使用されていた家具等持ってきて頂く様声をかけ、椅子や、小ダンス等置いておられる方がある。ご家族の写真を飾っておられる。	利用者手作りの布団や使い慣れた家具を置いたり誕生日プレゼントの色紙や家族写真を貼っている。車いす利用でも畳上で動いて休めるようベットから畳に変更した人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示、居室へ表札や、分かりにくい方には、目印をトイレや、居室が分かるようにしている。PTイレや、タッチアップパー等補助具を使用し自立した生活が送れるよう工夫している。		